



が っ こ う
学校だより
 が っ こ う
3月号



れい わ ねん が っ こ う に ち
 令和5年2月24日
 よこはましりつ み つ ざわしょうがっこう
 横浜市立三ツ沢小学校

ゆうしゅう び かぎ
有終の美を飾る

こうちょう たかぎ のぶゆき
 校長 高木 伸之

コブシのつぼみが柔らかくしなやかな膨らみを見せる季節になってきました。暦の上では春を迎えていますが、これからは三寒四温、寒い日や暖かな日を繰り返しながら桜咲く季節を迎えていく、そんな期待感のある日々になってきました。

この1年、私は、学校で学びながら成長していく子どもの姿を見ることがとても楽しみで、毎日、その姿にふれてきました。

2月のある日、朝一番で体育館に行くと、寒い日でしたが、6年生の児童が、額に汗を光らせながら跳び箱の開脚跳びに挑戦していました。腰が少し跳び箱に引っかかるようでしたが、何度も挑戦していく中で、跳び越すことができるようになりました。授業の中で「できなかったことができるようになる。」という場面は、見ている私でも「頑張っって。」とこぶしを握り締めてしまいます。しかも、跳び箱を跳び越した日が、6年間最後の跳び箱の授業であったということで、とても素晴らしいと感じました。最後に、「よかったね。」と声をかけると、「頑張った。よかった。」と答えてくれました。きっとこの児童は、この日のことを一生忘れないだろうと思いました。

その足で2年生の教室に行くと、「お話のさくしゃになろう」という学習をしていました。ワークシートにどんどん話を創作していくその顔は、とても真剣で、頼もしく感じました。さらに、3年生の教室に行くと、子どもたちが2時間目開始の挨拶をしていました。背筋をピンと伸ばした素晴らしい姿勢で、授業の開始を迎えていました。今年の学校保健委員会のテーマにある、「姿勢」のよさを意識していることに感心しました。

また、音楽室では、5年生の児童が、星野源さんの「恋」という音楽の合奏をしていました。コロナ禍の行動制限が少しずつ緩和される中、だんだん上手になっていく音楽を校長室でも聴いていましたが、実際に、近くで聴くと、とても迫力があって、演奏することの心地よさや感動を久しぶりに味わうことができました。



3月弥生、今年度最後の月となりました。17日は、第90回卒業証書授与式です。三ツ沢小の卒業生として誇りをもち、胸を張って参加して欲しいと思います。「有終の美を飾る」という言葉があります。「有終」は、『詩経』大雅・蕩の「初め有らざるなし 克く終わりの有る 鮮し (物事をするのに、初めはだれでも計画を立てて一生懸命にやるが、それを最後までやりとげる者は少ない)」から、終わりをしっかりしめくくるということになり、現代の意味は「最期までやりとげ、立派な成果を上げること。」とされています。3月は学校の今の学年が終わる月です。ぜひ学年のまとめをしてしっかりとしめくくり、進学、進級してからの学校生活に夢をもって過ごして欲しいと思います。

保護者の皆様にはクラスや学年の様々なところでご支援・ご協力をいただきありがとうございました。また、地域の皆様、PTA役員・委員の方々には、学校や地域の行事などにもご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。来年度もよろしくお願ひ申し上げます。